

学校名	静岡県沼津市立静浦小中一貫学校
授業者	糸川麻里子

1. 単元計画

1-1. 単元名

静浦探検隊 ～ひものはかせになろう～

1-2. 学年

3

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合

1-4. 単元の概要

「課題の設定」では、まず「静浦ってどんなところ？」と投げかける。「海が近い」「魚がとれる」など出されるが、子どもは自分たちの住む地域について意外と知らないことに気づき、海に関する事柄が多いことから静浦漁港に見学に行く。漁港見学をして分かったことから、探求したい問いを作るため、調べたいことを考える。ここで出てきたものから「ひもの」について調べていくことにし、全体のテーマを「ひものはかせになろう」とする。

次に、その問いを解決するためにどういった方法で「情報の収集」を行えばよいか考えていく。子どもたちの経験から、情報を集める方法を大別すると①インタビュー②本やインターネット③フィールドワーク（見学や実際にやってみる）の3種類があることを確認する。そこで、自分たちの問いを解決するためにはどの方法で調べたらよいかを考える。今年度はコロナ対応で、「実際に食べる、つくる」活動は出来ないので、「工場見学に行く」に決め、情報収集を行う。

「整理・分析」では、集めた情報から「静浦のひものは〇〇だ」と自分の考えを作る。ここで、ミニプレゼンにまとめるために、「なぜそう思ったのか」という根拠と主張が正しくつながっているかを「なぜなにシート」を使いながら、まとめていく。根拠は付箋に書いたものを使うが、インタビューから得た情報は黄色、本やインターネットなどの資料から得た情報はピンク色、フィールドワークから得た情報は黄緑色と色分けをして貼っていく。そして、根拠はいろいろな面から述べられる方がよいことを話し、視覚的に捉えやすくする。

「まとめ・表現」では、紙を使ったプレゼンテーションを行うために、紙スライドを作るようにする。スライドを全部で6枚使用する。1枚目は「なぜなにシート」の上の部分である「自分の考え」を、3～5枚目には「なぜなにシート」下の部分の「根拠」を、6枚目は「まとめ」を書けばよいと分かるが、2枚目には何を入れたらよいか分からないと言う子が出てくる。そこで、国語の説明文を思い出させ、「はじめ」の部分の話題提議や問いの文がないことに気付かせ、それを書くようにする。また、スライドには発表する文をそのまま書くのではなく、重要な言葉や図などを使って、シンプルにまとめるようにする。最後にグループ内で発表会を行う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

静浦は、昔から海とともに栄えてきた。現在も静浦漁港があるが、捕れた魚は沼津港へ持っていくため、漁港にある販売所には、地元の名産である「ひもの」を主に売っている。そこから、なぜ「ひもの」を売っているのか、特産なのだろうか？という子供の疑問を解決するためにひもの工場に行って話を聞き、問いを解決していきたい。

また、初めての総合学習であるので、自分達の問いを解決したいという思いが続くような仕掛けをしながら、学習を進めていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、静浦の特徴やよさに気付く。
- ・「静浦とはどんなところ」という投げかけから、ひものが有名であることに気付き、そのひものに関する問いや課題を自ら設定し、その解決のためにどのように調査したらよいかを考え、実践する力。
- ・「静浦のひもの」についての探求的な学習に、主体的・協働的に取り組む。

1-7. 単元の展開（全 25 時間）

時数	学習活動・主な内容	○教師の指導 / ☆ 主な評価 ・外部連携 / 使用教材等
1 ～ 5	<p>第1次</p> <p>○静浦について知っていることを整理しよう。</p> <p>○静浦漁港へ見学に行こう。</p> <p>○見学で分かったことから、知りたいことを考えよう。</p> <p>○学級で、知りたいことを決めよう。 → ひもの（工場見学）</p>	<p>○静浦について知っていることは「海」に関連していることが多く、知らないことも多いことから、漁港に見学に行くことにする。</p> <p>☆漁港で集めた情報から、自分の知りたいことを問いにしようとしている。</p> <p>・静浦漁港青壮年部/KWL シート</p>
6 ～ 15	<p>第2次</p> <p>○工場見学で聞きたいことを考えよう。</p> <p>○「ひもの工場」に見学に行こう。</p> <p>○2つの工場見学の結果を整理しよう。</p> <p>○今まで解決した疑問以外で、新たに解決したいことを考えよう</p>	<p>○2つの工場の共通点と相違点を、どうすれば分かりやすくまとめられるか考えさせる。</p> <p>☆問いを解決するためにどんな情報をどのように集めればよいかを考えている。</p> <p>・ひもの工場</p> <p>・沼津魚仲商協同組合内ひらき組合/ ・KWL シート</p>
16 ～ 20	<p>第3次</p> <p>○集めた情報から、主張と根拠を組み立てよう。</p>	<p>☆なぜなにシートの下の根拠には、インタビューから、本やインターネットなどの資料から、フィールドワークからという三つの種類を使って書こうとしている。</p> <p>・なぜなにシート</p>

21 ～ 25	第4次 ○紙プレゼンテーションのためのスライドを作ろう。 ○プレゼンテーションをしよう。	☆誰に伝えるのかという相手意識をもち、分かりやすいスライドを書いて、伝えようとしている。
---------------	---	--

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 27 時間中の 21 時間目

2-2. 本時の目標

A : 「静浦のひものは〇〇だ」という考えをもっている。

- ・なぜなにシートを使って根拠を考える。
- ・種類ごとに色分けをした付箋に、自分がそう思った理由を書き込んでいく。

A' : 自分の考えと正しくつながった根拠を、考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	*教師の指導・支援 / ☆評価の視点 (方法)
<p>○今まで調べてきたことからどんなことを考えたかな? 「ひものは静浦にとって〇〇だ」「静浦のひものは〇〇だ」という形で書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静浦のひものは有名だ。 ・静浦のひものは人気だ。 ・ひものは静浦にとって宝だ。 <p>○なぜそう言えるのかまとめていくには、何を使ってまとめたらよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思ったわけを言うんだよね。 ・理由を書くには「なぜなにシート」を使えばいいね。 <p>◎なぜなにシートの下の部分にはどんなことを書けばよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューで聞いたことや、工場見学で見えたこと、実際に食べたり焼いたりしたことで分かったことを書けばいいね。 ・見学の時にもらったパンフレットも使えるね。 ・なぜなにシートは上の部分と下の部分がつながっているから、それぞれの理由が自分の考えとつながっているのが大事だね。 <p>○自分の考え (主張) と、そう思ったわけ (根拠) が正しくつながるように考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学で分かったことが使えるかな。 ・パンフレットに書いてあるのが使えるそうだよ。 	<p>*T1 今までの学習を想起させながら、静浦のひものについてどう思ったか、問いかける。</p> <p>*T2 子どもの発言をキーワードで板書する。</p> <p>*今までの学習で、どのようなスキルを使ったか振り返りながら、なぜなにシートが相応しいことに気付くようにする</p> <p>*なぜなにシートを拡大したものを使いながら、書き方の確認をする。</p> <p>*なぜなにシートの上の部分に自分の考えを記入するよう伝える。</p> <p>*思いついた根拠は付箋に書き、自分の考えとつながりそうなものを残していくようにする。</p> <p>*インタビューから得た情報は、本やインターネットなどの資料から得た情報は、フィールドワークから得た情報はと色を分けるようにする。</p> <p>*根拠はいろいろな面から考える方が説得力があることを話し、付箋ができるだけ3色になるよう声をかける。</p> <p>☆自分の考えと正しくつながった根拠を考えることができる。(ワークシート)</p>

3. 今回の活動の自己評価

「情報の収集」が終わり、「整理・分析」の段階に入っていく時間である。今まで集めた資料から、自分が「こう考える」という主張の部分を考え、それを裏付ける根拠を整理していく。子どもたちは、これまでの経験から「なぜなにシート」を使えば良いという意見が、比較的すんなりと出てきた。また、「なぜなにシート」はどこに何を書くのか、どうしてそういう形になっているのかを理解していたため、主張と根拠がつながってはいけなこともしっかりと分かっていた。改めて学習の積み重ねが大事だと感じた。

子どもによって個人差があり、最初の自分の考えを導き出すことに時間がかかってしまう子がいた。ここへの助言を、もっと細やかに行う必要があったと思う。また、根拠を考えると個人差が出て、なかなか書けない子がいたので、こちらも支援が必要だと感じた。

4. 今後の課題

3年生になって始まる学習であるため、課題設定の手順や、情報の収集の仕方、整理・分析からまとめなど、一連の流れをしっかりと確認しながら進めていく必要があると言える。それぞれをじっくりと確かめながら進めることで今後の活動に生かせると考える。そのため、しっかりと時間を確保することが大事だと考える。

また、経験が少ないこともあるが、個人による差も大きいので、必要に応じてグループによるまとめなども取り入れる必要があると考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

初めての総合的な学習ということで、自分たちで課題を設定し、自分たちで解決方法を見つけ、自分たちでまとめていくという活動を、初めて行うことになる。そのため、どんなスキルが使えるか、事前に教師側が判断し、提示できるような準備が必要だと考える。

また、多くの体験（工場見学やひもの作り、インタビューなど）を取り入れることで、単なる知識の構築だけでなく、地域に対する理解をより深められると考える。

そして、自分の地域に対する理解とともに、地域の素晴らしさを感じ愛着を持てるような授業にしたい。